伊曽島小だより

NO.11

よく学び　よく遊び　心豊かでたくましく生きる　伊曽島っ子の育成　２０２６．９．１５

２学期が始まって

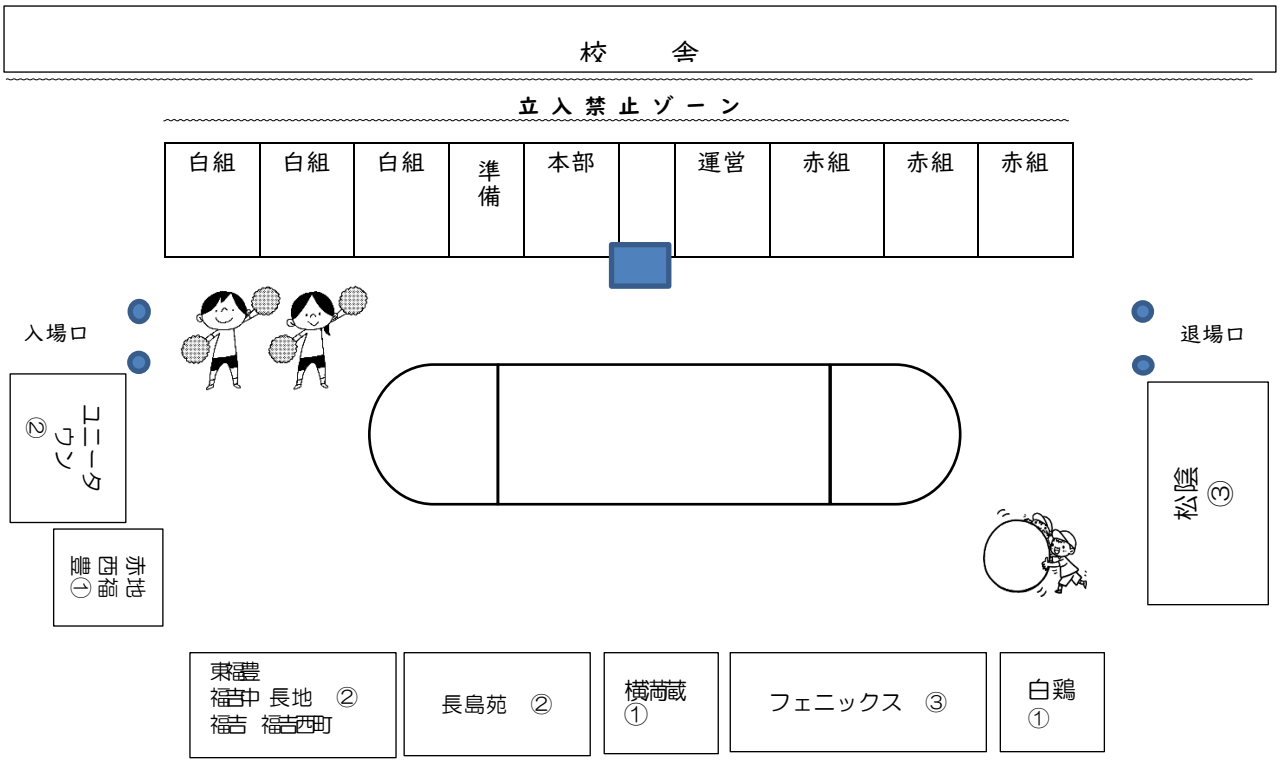
始業式に参加したみなさんの元気な笑顔を見てとても嬉しかったです。よく日焼けして夏休みを満喫できたようです。学校が始まることに気持ちが暗くなっていないようで安心しました。長い休みで学校のリズムを取り戻したり、家庭学習の習慣を取り戻すことに少し手間取っている人もいたかも知れません。しかし、すぐに学校のペースにもどって元気に授業を受けている姿が見られるようになりました。２学期には運動会や社会見学、修学旅行にキャンプなど大きな行事がたくさんあります。毎日の授業を大切にしつつ、行事への取り組みも協力し合ってがんばりましょう。

１、２年生夏野菜の収穫





令和８年度　運動会会場図



本年度の運動会　１０月１０日（土）

〇運動会の競技は午前中に終了しますが、弁当を用意してください。午後からは教室で運動会の“ふりかえり”を行います。

〇**１０月１３日（火）が代休日です。**ただし、雨天等で１０日に運動会が開催できなかった場合は、

１１日が運動会になり、１１日にも開催できなかった場合、祝日の１２日は開催できないので
１３日以降の平日が開催日になります。天候判断は前日にします。
〇当日、**熱中症暑さ指数が３１を超えた時は運動会を中断**し、教室での授業を５限まで行います。
中断した場合、残りの競技は、天気予報を参考に１４日（水）以降の平日に行います。
〇児童席付近は立ち入り禁止ゾーンとなっています、保護者の方は入れません。
〇観覧場所の区割りはしますが**テントは張りません**。各自で熱中症対策を講じてください。
〇児童が競技や演技をしているタイミングの該当保護者が応援しやすいよう場所を譲り合ってください。

あそびは学び、学びはあそび

「あそびは学び、学びはあそび」と題した講演を視聴しました。ちょうど２学期の始業式で「夏休みにたくさん好きなことが出来たと思うけれども、学校で学ぶことも本当は同じように楽しいことだと思うよ」という話をしたところだったので、正にその通りだと思いました。

いつも伝えていることですが、出来なかったことが出来るようになる、知らなかったことが知れる、それはとても嬉しいことだし、それこそが学ぶ目的だと思うのです。たとえばサッカーをして遊ぶことはとても楽しいと思う子がいると思います。しかし練習しなくても誰でも簡単に出来てしまうのではおもしろくないのではないでしょうか。たいへんな練習を続けることでだんだんと上達してドリブルがうまくなったり、シュートが決められるようになっていくからおもしろいのだと思います。学ぶことも同じで、誰でも知っていることを教えられてもおもしろくないし、誰でも出来ることが出来ても嬉しくないですよね。逆に誰も見たことのないものを見つけたり、苦労して練習した結果、出来るようになると嬉しいですよね。だから役に立つかどうかは関係なく、学ぶこと自体が嬉しいことだし楽しいことなのです。先日亡くなったノーベル賞受賞者の白川英樹さんも「好きなことや得意なことから生まれた疑問が研究に結びついた」と語っています。

私は今、筋トレにはまっていますが、それは楽しいからです。筋トレをしていると少しずつですが筋肉が発達してきます。そこに自分の成長を感じるのでとても嬉しくなるのです。もっと若い頃から筋トレしていたらもっと成長できたかも知れないと思うと、早くやれば良かったなあと思うこともあります。

みなさんは若いです。ほっといても成長するくらいですが、がんばって練習したり学んだりすればそのスピードはもっと上がると思います。

ただ、気をつけたいのは他の人と比較しても仕方がないということです。「なんの努力もしてないけど、こんなこと出来るよ」と自慢する人がいますが、わたしはすごいと思いません。努力や積み重ねなしに出来ることのレベルは高くありませんし、何もしなくて出来ることに価値があるとは思いません。がんばった、あるいは続けてきた結果、昨日までの自分や去年までの自分と比べて出来ることが増えているとしたら大いに自慢して良いと思います。だから、私はＰＴＡのおたよりで筋トレを自慢しました。みなさんも自慢できることが増やせると良いですね。

宇宙の始まりと人類、生命の始まり

この二つのテーマは多くの人が興味を持つ大きな謎です。私も昔からこの謎に興味を持ち、本を読んだりテレビ番組を見たりしてきました。科学者もこの謎を研究している人が多く、今も新しい発見が相次いでいます。新しい事実が発見されると、今まで真実と考えられていたことが覆ってしまいます。

先日も「タモリ、山中伸弥のびっくりはてな」というテレビを見ていて新しい説が出てきたことを知りました。以前の学校だよりで、人類はアフリカで誕生して世界中に広がった、ネアンデルタール人などの人類はほろんでしまった、という説を紹介しました。しかし最近発見された新しい事実から、また新しい説が出てきました。それは、ネアンデルタール人やデニソワ人という原始人類が今の人類であるクロマニヨン人と交雑することで、今の人類の中に生きているという説です。その説によれば、そもそもネアンデルタール人とクロマニヨン人を別の種として区別できないという話です。つまり、ブルドッグとチワワの雑種はどちらの種類でもないというのと似ています。

そして交雑することはその地域の気候や環境に適応した遺伝子を取り入れることに役立ったというのです。だから、単にかしこかったから頭の悪い種類に勝つことが出来たというのではなく、お互いの優れた特性をとりいれることで広く繁栄したということなのです。

この説は昨年頃から出てきた最新の説なのですが、今後も新しい発見があるかも知れませんね。